

委員派遣実績報告書

令和7年6月4日

米子市議会議長様

原子力発電・エネルギー問題等調査特別委員会

委員長 稲田 清



委員派遣を行い、所管に関する事項について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	原子力発電・エネルギー問題等調査特別委員会
期 日	令和7年5月29日
視 察 先 及び視察 内 容	・鳥取県の再生可能エネルギーに関する事業について （鳥取県庁） ・鳥取放牧場風力発電所について（鳥取県企業局東部事務所）
参加者名	【委員長】稲田 清 【副委員長】矢田貝香織 【委員】岡田啓介、土光 均、中田利幸、西野太一、又野史朗、 森谷 司 【委員外議員】津田幸一、錦織陽子 【随行】議会事務局 事務局長 毛利公一 議事調査担当係長 坂本麻美
経 費	市マイクロバスを利用のため経費なし
委 員 会 所 感	別紙のとおり

●鳥取県の再生可能エネルギーに関する事業について

(鳥取県生活環境部脱炭素社会推進課)

令和7年5月29日(木) 午前10時45分～正午(鳥取県庁議会棟会議室)

1. 視察目的

鳥取県における再生可能エネルギーに関する事業について調査するため。

2. 視察概要

2024年において、世界の平均気温が抑制目標の「1.5℃」を初めて超える結果となった。地球温暖化は極端な気候の発生確率を高め、健康や生態系にも影響することは言うまでもなく、また鳥取県においても熱中症による搬送者が2022年において人口比率で全国のワースト1位となってしまった現状がある。

国は、2025年2月18日、温室効果ガスを2013年度からそれぞれ2035年度60%削減、2040年度73%削減する新たな目標を盛り込んだ地球温暖化対策計画を閣議決定したところだが、並行して鳥取県も2022年3月25日、『令和新時代とっとり環境イニシアティブプラン』を改訂し、2030年度のCO2削減目標(2013年度比)の引き上げ(40%削減から60%削減)を行った。それに付随して「PPAを活用した太陽光発電の設置促進」、「とっとり健康省エネ住宅の普及促進」、「電動車をはじめとした燃費の良い自動車の普及促進」等に重点的に取り組むこととした。

3. 視察(説明)要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

ゼロカーボンシティを目指す中で、鳥取県は家庭のCO2排出量が全国平均より多いというデータが示されている。これは自家用車使用によるガソリンの消費量が多いためと推測されている。(全国的に見れば企業による消費が少ない分、家庭での消費が多くなる傾向も背景にはあると思われる。)したがって、家庭においてはEV・PHVなどの電動車への切り替え・LED照明への切り替えが、企業においては脱炭素経営に向けた取組としてEV商用車への切り替え、置き配ボックスや宅配ロッカーの設置などが、それぞれ具体策と示されており、そういった施策を念頭に置いて、米子市においても身近なところからのゼロカーボンシティへの取組が必要であると考えられる機会となった。

(当日の説明を聞いた内容を基に作成しており、一部作成者の個人的見解を含みます。)



●鳥取放牧場風力発電所について（鳥取県企業局）

令和7年5月29日（木）午後1時15分～午後1時45分（鳥取県企業局東部事務所）
午後2時20分～午後2時45分（鳥取放牧場風力発電所）

1. 視察目的

鳥取放牧場風力発電所において行われている風力発電について調査するため。

2. 視察概要

鳥取放牧場風力発電所は平成17年12月より運用を開始している。設置にかかる総事業費は約8億円で、1基あたり1,000kWで計3基設置しており、発電した全量を中国電力に売電している。設置の目的は、平成12年に策定の鳥取新エネルギービジョンによるもので、鳥取県内の電力自給率の向上を目指すものであった。また、啓発活動としての目的もあり、平成18年度から現在に至るまで約3,000人の視察・見学者があり、環境学習に寄与したものと思われるとの説明であった。周辺環境への配慮としては、生態系・騒音・景観・飼育牛・電波障害といった項目について問題なしとなっているということで、設置場所について適地と言える。設置から約20年となっているが、今後は一定の役割を終えている観点から売却等を視野に入れているとのことであった。背景には、平成25年4月からFIT（再生可能エネルギーの固定価格買取制度）により1kWhあたり19.08円の買取価格であるが、設置から約20年でその期間が終了することもあり、風力発電単体での収益面での安定運営は難しいとのことであった。

3. 視察（説明）要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

再生可能エネルギーには太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどがあり、その中から米子市に設置されていない施設として、この風力発電所を視察した。収益面で厳しいことに加え、日本製の風力発電機は製造されておらず、仮に新規に設置した場合、必然的に外国製となり、その維持管理や部品交換に課題があり、これらを解消できるものでなければ、新規に設置する便益はないものと考えてよいと思える。視察時の説明でもあったが「電力の安定した供給」については、どうしても再生可能エネルギーは難しい点が多く、化石燃料による発電が主となるのは否めないとのことであり、改めて、電源構成についてどういったエネルギー供給の在り方が重要であるのかを認識できる機会となった。

（当日の説明を聞いた内容を基に作成しており、一部作成者の個人的見解を含みます。）

